

# 第72回全国高等学校PTA連合会大会宮城大会 参加報告

札幌東高等学校父母と先生の会 会長 街 道 美 恵  
札幌東高等学校父母と先生の会副会長 野 中 沙 緒 理

令和5年8月24日（木）、25日（金）の2日間に渡り、宮城県仙台市で開催された第72回全国高等学校PTA連合会大会宮城大会に参加してまいりました。

メインテーマ「豊かな杜につむぐ虹の光」、サブテーマ「しなやかな強さで生き抜く力」の下、全国から5,000人を越える会員が、講演や分科会を通じて、PTA活動に対する理解を一層深めました。

2日間、多くの会員が参加され、全体会では立ち見の方がいらっしゃるほどの盛況ぶりでした。ご講師のお話も、ユーモアたっぷり興味深く、今後の子どもとの関わりの中で参考になる内容ばかりでした。質疑応答も盛んに交わされ、内容の濃い充実した時間となりました。

講演並びに分科会の概要を取りまとめましたので、ご参考にしていただければ幸いです。



## 【分科会】

### 第3分科会 レジリエンス教育 ～「強く生きるための多様性とコミュニケーションの光」～



第3分科会では、「自己肯定感と逆境から立ち上がる力を育む」との視点から、仙台大学の氏家靖浩教授から基調講演をいただいた後、パネルディスカッション形式で内容を深めました。

概要は次のとおりです。

「レジリエンス」とは

脅威となる事態がもたらした心理的な傷つきや落ち込みから立ち直る回復力や弾力性、あるいはその心的過程や結果。語源の意味は「跳ね返す」

レジリエンス教育とは、高校生に求めるのではなく、私たち大人から！

部活動や勉強、友人関係でつまづいてしまった子供に対して言うてはいけない言葉

×「あの時～だったからダメだったんだ」など過去を責める言葉。

×上から目線や責めるような言動。

×自分たちもそうだったから大丈夫など、大人の価値観の押しつけ

このような言葉から、子どもたちはあきらめ、どうせ話を聞いてくれないと考える。では、どうすればいいのか。

○同じ目線に立って伝え方を考える。大切なのは相手の立場に立つ。

○多様な考え方（ヒント）を思いつく限り言ってあげること。

○多様性、コミュニケーションは大人としての経験であり武器。

○すべてを許す（怒らない）。

○基本は丁寧に向き合う。聞く、話す、関わること。気にかけてあげる。

○本音を話す。「最後まで聞いてくれるのはうちの親」という信頼を得る。

そうすることで、子どもたちは前向きに生きていける。レジリエンスにたどり着く。

大人がレジリエンスを阻害する立場になってはいけない。

第4分科会では、「いまだから語りたい！PTA活動の魅力 PTA活動の意義と可能性」をテーマに、宮城教育大学の野澤令照特任教授から基調講演をいただいた後、フリートーク形式で内容を深めながら、他のPTAの皆さんと交流しました。

概要は次のとおりです。

#### **社会総がかりの教育の実現**

- 学びの場の提供（健全育成や時代に応じた課題の研修）
- 保護者と教職員が対等な立場で家庭や地域の問題点について話し合うことができる関係づくり
- つながりづくり（地域で育つ子どもの具現化）、子育てについて、地域の方々に相談したり、支えてもらったりすることができる環境づくり
- パートナーシップ（親と教師のより良い関係構築）、学校での子どもの様子がよくわかり、我が子を客観的に見ることができ、保護者同士のつながりができ支え合える環境

#### **災害は現実をあぶり出した**

- PTA活動等で保護者や地域の方々が常に学校に足を運び、コミュニケーションを図っているため、先生のサポートに集中できた。
- 学校のどこにどんな物品があるかを把握しているので手伝いがスムーズ。顔見知りのため、子どもたちも安心。ここは私たちで出来るから大丈夫！先生は他の事をして！先生が思うように動くことが出来たので、混乱はなし。

#### **【全体会】**

2日目 記念講演 「伝わる力・失敗から学ぶ」～しなやかな強さで生き抜く力～  
講師 仙台育英高等学校 野球部監督 須江 航氏

#### **監督の座右の銘**

- 賛同の多いことは時代遅れ
- 挑戦と行動する力を生徒に見せたい
- 人生は敗者復活戦（自分の人生の歩みから）

#### **講演の内容から**

- クオリティライン、タイムリミットを大切にしている
- 人生は敗者復活戦。大切なのは挫折との向き合い方。挫折のない人生なんて面白くない
- 挑戦から人生を1℃変える取組。変化は大きすぎても小さくてもいけない。たった1℃でも時間の経過とともに到達するところが違ってくる
- 長所短所の関係性。短所に丁寧に対処することができないと、長所を飲み込んでしまう
- 伝わる言葉とは そのために意識すること。人間は自分が欲しいものしか求めない。人間は欲しいものしか知らない。だからまず聞くしかない。丁寧に説明する。イマドキ世代とのコミュニケーション、イマドキ世代の特徴と彼らが得ている情報量を理解する
- 失敗から学ぶ。失敗すること（させること）は挑戦すること

全国大会に参加し、多くのことを学びました。子どもたちの教育活動の充実に向け、工夫改善を図りながら取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともPTA会員の皆様にはご支援、ご協力をいただきますよう、PTAを代表してお願い申し上げます。